

『ナツパ』じゃなくて『カツパ』!?

にやもし。

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

魔神「ドラゴンボールの世界に転生を望む、と？ よかろう、きさまを……ツパにしてやろう。あはははは」

転生を望む人物は気がつけばカツパになっていた。

目次

『ナツパ』じゃなくて『カツパ』!?

『ナツパ』じゃなくて『カツパ』!?

とある人物がドラゴンボールの世界に転生することを望んだ。
暇を持て余せた魔神は願いを叶えた。

——いいだろう。お前を……ツパにしてやろう。あははは……。

よく聞き取れなかったが魔神に望みを言った人物は驚愕した。
「ナツパ」だと!? ……と。

それから手続きを終了させて転生を果たした後、その人物は己の姿
を見て絶望した。

小動物のような、つぶらな瞳。

水掻きのついた細い手足。

緑色の肌。

頭には皿。

背中には甲羅。

「ナツパじゃなくてカツパじゃねえか!？」

地球とは違う水の豊富な惑星にて、カツパに転生したその人物は頭
を抱えた。ちなみにメスである。

それから数年後。

カツパがいる惑星にフリーザ軍が襲来。その惑星の原住民である
カツパたちは応戦。防衛軍を指揮するのはあのメスカツパである。
非道なフリーザ軍にカツパは激怒、赤いオーラを纏って次々と撃破し
ていく。ザーボンさんにドドリアさん、ギニュー特戦隊も彼女一人で

撃破、さらにフリーザ軍を壊滅させてみせた。これにはフリーザ様もびつくり、興味を持ったフリーザ様がお気に入りへの乗り物に乗って直々にやって来た。

「ほう、戦闘力18万ですか、素晴らしい。どうです？ 私の部下になつてみませんか？」

「カーパ、カパカパ、カツパッパ」

「喋れない振りをしてムダですよ？ あなたたちが日本語を話せるのは知っているのですから」

「……この惑星に手を出さないというなら部下になろうツパ」

「よい判断です」

日本語という単語にフリーザ軍はおろか周囲のカツパたちは困惑したが、その後、何事もなかったかのようにメスカツパはフリーザ軍に加入。めきめきと頭角を現せ、気がつけばフリーザ様の側近の座に就いた。その数年後にフリーザによるサイヤ人虐殺計画が始まった。その計画の最終段階でカツパは惑星ベジータにてバーダックと出会う。

「フリーザの右腕のカツパか!？」

「カパカパ。その様子だと他のサイヤ人は信じなかったみたいだなツパ、フリーザによるサイヤ人虐殺を……。今ならフリーザに気づかれることなく家族を連れて逃亡できるツパよ?」

「おれがフリーザを倒せばすむことだ!!」

宇宙へと飛んでいくバーダック。カツパはバーダックの妻であるギネとともに見送る。

フリーザが乗っている宇宙船を目指して一直線に空を駆けるバーダック。有象無象に沸いてくるフリーザ軍の兵士を蹴散らしながらもバーダックはフリーザと対面を果たしてみせた。

フリーザに向かって投げ放たれたバーダックのエネルギー弾。しかし、渾身の力を込めたその一撃はフリーザが生み出した巨大なエネルギー弾にあっけなく飲み込まれてしまい、フリーザ軍を巻き添え、バーダックを押しながら、惑星ベジータに向かって落下していった。

「……お前ほどの男をこの場で死なすのは、見るに忍びないツパ」

戦闘服がぼろぼろに朽ちていき、自分の息子の未来を幻視するバーダック。彼は自分の背後から聞こえるカッパの声に思わず後ろを振り向く。そこには腕を組んで仁王立ちするカッパの姿があった。カッパはバーダックの肩を掴むとその場から消え失せた。

「ほーっほっほっほ!! きれいな花火ですよー!!」

惑星ベジータの消滅を見届けるフリーザの哄笑が響く。

「……………は?」

「地球だカパ。いずれ、お前の子がここに来るだろうツパ」

腰に布切れを巻いただけのバーダック。傍らにはギネがおり、心配そうにバーダックを見ていた。

「これ以上ここに留まるとフリーザに怪しまれるツパ。悪いがここで別れさせてもらおうカパ」

言つて額に二本の指を当てるとカッパの姿がぶれて二人の前から

消失、フリーザの宇宙船に現れる。カッパの目の前には心底愉快そうに笑みを浮かべる、お気に入りの乗り物に乗ったフリーザ様。

「ほーっほっほっほ。どこに行ってたんですか？ カッパさん？ まさかと思えますがサイヤ人を逃していたんじゃないでしょうね？」

「破壊神ビルスを敵に回すようなことをするつもりはないツパ。知り合いのサイヤ人に別れの挨拶をすましに行っただけだカパ」

「ふうむ、なるほど。あなたがなぜ破壊神を知っているのか知りませんが、あれの脅威を知っているならば、おバカなことはいけません。今後とも期待していますよ？ それですが……」

フリーザ様はカッパにサイヤ人の王子であるベジータを保護したことを言い、カッパにベジータの監視を命じた。カッパはこれを承諾。カッパはこれ幸いとベジータを始め、生き残っているサイヤ人に教育を施すことにした。その傍ら瞬間移動で地球にいるバーダックたちに顔を出して彼らの様子を窺う。

飛ばし子として飛ばされたカカロットは無事にバーダックの下に着き、すくすくと育ち、バーダックと一緒に亀仙人——無天老師から武道を学ぶ。

そんな彼らの姿を見てカッパは内心、收拾がつかなくなった、やべえ……と戦々恐々しながらも、まあ、なるようになるだろ。……と気楽に考え、後先を考えずに行動する。

その結果。

ナメツク星、激闘編。

完全体のフリーザ様。フリーザ様と対面するのはカカロット、悟飯、ベジータにちよつと老けたバーダック、さらにターレスとブロ

リーがいて、全員がもれなくスーパーサイヤ人化していた。

「ちくしょう！　ちくしょう！　ちくしょう！」

憤怒の表情のフリーザ様、思わず悪態を吐く。そんなフリーザ様にカッパは申し訳なさそうに片手で詫びを入れる。

「すまんツパ。正直やり過ぎたツパ。ゴメン」

間もなくしてフリーザ様は文字通り塵一つ残さず消滅、ひとまず宇宙は平和になったとき。めでたし、めでたし。